

全国各地で開かれるマラソン大会へ
出場するためにベッドも備わる車



47都道府県のフルマラソン大会で完走を目指す加古川市上荘町の稲岡昇太さん(66)が、「全国制覇」まで残り1県と追った。これまでに約100の大会に出場し、6年ほど前には遠征のために寝泊まりができる車も購入。残るのは秋田県のみで、9月に開かれる「田沢湖マラソン」での目標達成に向けて準備を進めている。(田中朋也)

マラソン大会 「全国制覇」へ あと1県

加古川の元中学教員 稲岡さん(66)



全国各地のフルマラソン大会へ出場している稲岡昇太さん。全国制覇まで残るは秋田のみだ=いずれも加古川市上荘町国包

9月、秋田の大会向け準備「次は海外にも挑戦」

稲岡さんは元中学の社会科教師。大学卒業後、加古川市内の中学校や同市教育委員会などで勤務してきた。マラソンを始めたのは50代で、健康診断の結果が正常範囲ではなくなり、健康のために平荘湖周辺を走り始めた。同湖は一周約5km。徐々に距離を伸ばす中で、マラソン大会出場への意欲が湧いてきた。

2009年からは、丹波市や朝来市で開かれたハーフマラソン大会に出場し、相次いで完走。兵庫大学加古川市で開かれたマラソン講座に参加したり、休日は加古川河川敷を走ったりして、どんどん走ることにのめり込んでいった。

10年からはフルマラソンにも挑戦。岡山県で開かれた「そうじゃ吉備路マラソン」を皮切りに、全国各地の大会へ出場するようになった。15年の赤穂ウルトラマラソンでは年代別順位で

1位を獲得。6年ほど前には遠方の大会にも出場できるよう、ベッドを備えた車も購入した。完走後は観光地を訪れるのが定番となり「現地の酒や食事を楽しむのひとつ」と話す。

新型コロナウイルス禍でも稲岡さんの歩みは止まらなかった。各地でレースの中止が相次ぐ中で、スマートフォンを駆使したオンラインでの大会に出場。最近では「フルマラソン全国制覇中」と書いた特製Tシャツを着て走るようになり、「今は何力所目ですか」「この都道府県が良かった？」などと話しかけられることが増えたという。

稲岡さんは「全国制覇後は海外のマラソン大会にも挑戦したい」と先を見据え、遠征に同行することも多い。妻の睦さん(67)は「決めたことをやりきる姿が尊敬できる。応援したい」とエールを送った。